

令和3年度 第1回しずおか食の安全推進のための意見交換会 議事録

開催日時：令和3年11月19日（金）14:00～15:15

開催場所：県庁西館4階第一会議室B

出席者：別紙参照

概要

1 開会

2 しずおか食の安全推進幹事会 幹事長（健康福祉部生活衛生局長） 挨拶

3 議題

「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン基本方針」について

発言者	発言要旨（意見及び回答）
事務局 関係課	「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン基本方針」（評価と課題）を説明
(一社)静岡県 食品衛生協会 専務理事	一般社団法人静岡県食品衛生協会では静岡県ミニHACCP事業としてHACCPの承認をしている。現在、お茶関係の事業者からの取得が多くなっている。最近では、「刻みネギ」の申請がありJGAPを取得していた。資料4には、GAP認証に4種類の記載があるが、これらの違いを教えてほしい。
地域農業課長	GAP認証の違いについては、審査の項目が違っている。国際標準に近いほど審査の項目が多くなる。生産工程以外にも、労働問題、人権問題、経営方針の問題、このようなものについて国際基準かどうか求められる。しずおか認証は一般の小規模事業者には大きくは関係してこない項目を省略しており、生産工程管理に重点を置いているため、項目数が少ない。
(一社)静岡県 食品衛生協会 専務理事	HACCPに沿った衛生管理では原料の受け入れ工程が非常に重要と考えており、しずおか認証がどの程度信頼できるか教えてほしい。
地域農業課長	しずおか認証でも生産工程管理については必要な審査をしており、十分信頼ができるものであると考える。
静岡県立大学 食品栄養科学 部 教授	令和元年と令和2年で食中毒による健康被害の発生者数が減っていると説明があった。この年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手洗いの徹底や、外食が控えられたという、例年とは違う因子があり、これが、健康被害の発生者数に影響を与えているのかなと思っている。平成30年以前とは少し違うイメージがあるが、どのような評価をしているか。また、魚介類の食中毒で、アニサキスや寄生虫が原因の食中毒が増えてきている。今後、どのような対策をしていくかご意見を伺いたい。

<p>衛生課長</p>	<p>まず、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響ですが、静岡県の感染症発生動向調査によると、感染性胃腸炎の報告件数は、令和元年までは約2万件で、市中で発生しているノロウイルス等による感染状況がそのくらいあった。令和2年に関しては、半減して約1万件となっており、市中でのノロウイルス等による感染がかなり少なくなっている。静岡県では令和2年2月から新型コロナウイルス感染患者が発生しているため、令和元年の数字としては、今までの監視指導や啓発の成果として評価できると考えている。令和2年については、感染性胃腸炎の発生状況が半減しているため、新型コロナウイルス感染症の影響が含まれると考えている。</p> <p>平成21年の新型インフルエンザウイルスの発生時も、「手洗い」が日本中で騒がれた。その当ても食中毒の発生が減少していることから、食品従事者だけでなく、一般の人が「手洗い」を実施するということは、食中毒対策として非常に有効であることは実証済みである。今後も、習慣として「手洗い」が普及してくれば、ノロウイルスによる食中毒はだいぶ減少していくと考えている。</p> <p>寄生虫による食中毒については、件数としては多く発生しているが、状況として魚の中で寄生虫が多くなったという状況ではなく、海の状況も変わっていないとの報告がある。増加の原因としては、今まで1人の患者で行政的に食中毒としてカウントされてなかった事件が、食中毒として報告することとなったため、厳密にカウントされるようになってきたことがある。また、流通状況が良くなり昔は流通していなかった生のカツオなどが流通できるようになり、食中毒の発生が増えたことが考えられる。対策としては、基本的には冷凍が有効である。ただし、例えばヒラメを完全に冷凍すると、それが製品として成り立つかという問題もある。目視点検や冷凍の必要性など啓発を続けていくしかないと思っている。</p>
<p>静岡県立大学 食品栄養科学 部 教授</p>	<p>県民が不安に思う項目で食品添加物の割合が相変わらず高い。これは、食品添加物の理解が浸透していないのかなと思う。一日摂取許容量（ADI）、つまり、生涯毎日摂取しても健康への悪影響がないとされる摂取量以下で添加されているとうことを理解していないのかなと思っている。残留農薬も同じで、意図的に食品に使用される物質について、しっかりと、県民の方に理解をしてもらうことが必要かと思う。</p> <p>消費生活審議会に出席したが、健康食品での被害状況がかなり出ていた。健康食品をインターネットで購入する場合、直接個人に健康被害が発生している事例があるということなので、食の安全の観点からもそういう点については、購買する場合は気を付けることが必要かと思う。</p> <p>食品安全委員会で若い学生に対して、食品の安全に対するモニターを応募する事例があった。静岡県が実施している事業についても、学生の協力を仰ぎ、実施していくような取り組みを、考えていただくと良いと思う。若い時から食の安全についての教育ができるのではないかと思う。</p>
<p>静岡県消費者 団体連盟 生活一般部員</p>	<p>消費者団体連盟として、現在いろいろな啓発活動を行っているが、なかなか浸透できないところがある。先ほど先生から指摘のあった食品添加物や残留農薬の問題もある。引き続き農業生産者や水産物を取扱う方々に衛生講習などしていただき、安全なものを生産・販売していただくようお願いしてほしい。</p>
<p>衛生課長</p>	<p>いただいた具体的な意見を踏まえ、原案の作成をしますので、2回目の意見交換会で改めて意見をお願いしたい。</p>

事務局 関係課	「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン基本方針」（主な改正点）を説明
静岡県生活協 同組合連合会 会長	<p>食の安全安心の推進については、関係部局が積み上げ継続的に実施されていると思う。基本方針では HACCP についての記載が非常に増えており、非常に重要なことだと思いますが、消費者にとっては横文字とカタカナ文字はとても難しい。これは本当に、裏表の関係になると思う。県政インターネットモニターアンケートでも、この HACCP について、意味を知っているという人は 21.6%であった。公募のモニターで 21.6%なので、一般の人であればもう少し下がると思っている。したがって、HACCP に取り組んでいる事が、安全であるという事、その事で消費者の信頼が高まるような形で、情報交換や啓発を行って欲しい。消費者は正確な情報を知ることによって、相互理解が深まる。そういう形を考えてほしい。</p> <p>食の総合相談窓口は消費者にとって重要である。県政インターネットモニターアンケートでも知っているという方は 20%で 80%の方は知らないような状況である。「商品事故の情報が複数確認できたら、まず疑う」というのが事業者のテーマであると考えている。消費者、利用者から 2 件、3 件相談があったら、直ちに調査に入る必要がある。消費者からの意見がスムーズに入ってくる組織は健全で、大規模な被害を押さえることができると思っている。そういう意味では、昨年度の食の相談窓口の実績の 4 万件は非常にご苦勞されていると思う。相談窓口の機能と中身をもっと知らせながら、信頼回復を行うことで、逆に食の安全確保にもつながり、良い循環をつくることのできるんじゃないかなと思っている。</p>
衛生課長	<p>HACCP については、「宇宙食と同じ様に安全な食品を作ります」というフレーズで出てきて、ハードルが上がり進まなかったという経緯がある。現在、国は衛生管理の見える化という事で普及しており、消費者にもわかるように HACCP を推進していくと説明している。まだまだ浸透していない。食の総合相談窓口については、BSE が発生し、アクションプランが策定された頃に、表示も含めて食の安全性について、どこに相談すべきかということで保健所及び衛生課が窓口になり、たらいまわしにしない（ワンストップ）ということで開設された。</p> <p>どちらについても、今後、様々な方法、あらゆる機会を通じて普及していきたい。</p>
衛生課長	基本方針については、ご了承をいただいたということで、これをもとに管理指標を作成していく。次回の意見交換では、具体的な管理指標について意見を伺う予定である。

4 その他 事務局から今後のスケジュールについて説明

5 閉会

第1回 しずおか食の安全推進のための意見交換会 出席者

(1) 学識経験者、消費者団体、業界団体 (6名)

氏名	所属・役職
増田 修一	静岡県立大学 食品栄養科学部 教授
波多野 初枝	静岡県消費者団体連盟 生活一般部員 (元静岡県消費者団体連盟 理事)
稲垣 滋彦	静岡県生活協同組合連合会 会長
山下 昌徳	静岡県経済農業協同組合連合会 みかん園芸部 部長
高瀬 進	静岡県漁業協同組合連合会 指導部長
遠藤 壽	(一社)静岡県食品衛生協会 専務理事

(2) しずおか食の安全推進幹事会 関係課

氏名	職名
田中 喜久夫	しずおか食の安全推進幹事長 (健康福祉部生活衛生局長)
森 統彦	危機管理部危機政策課 課長
山島 茂樹	くらし・環境部県民生活課 事業者指導班長
大石 景子	健康福祉部健康増進課 専門主査
堀川 俊	健康福祉部薬事課 課長
芦澤 裕之	経済産業部マーケティング課 課長代理
石川 盛一郎	経済産業部農業戦略課 課長
吉住 理恵子	経済産業部地域農業課 課長
小林 栄人	経済産業部お茶振興課 課長
吉田 慎	経済産業部畜産振興課 課長
栗原 周佐	経済産業部林業振興課 技師
萩原 快次	経済産業部水産振興課 課長
花井 孝之	経済産業部水産資源課 課長
櫻井 澄人	教育委員会健康体育課 課長代理
漆畑 健	しずおか食の安全推進委員会事務局 (健康福祉部衛生課長)